

株式取得に関するリリース(2025 年 4 月 22 日公表) 主な質疑応答記録

日時：2025 年 4 月 22 日(火) 18:00 ～ 19:00

出席者：代表取締役 社長執行役員 横田 浩

取締役 専務執行役員 ライフサイエンス部門長 岩崎 史哲

Q: 今回の買収対象では、体外診断薬、分子診断薬など対象事業がいくつかある中で、特にどの事業に魅力を感じているのか。

A: 自己免疫疾患向けの免疫検査市場は安定的に拡大していくとみているし、国内のコンパニオン試薬も期待している。また、試薬原料の事業は中国を含めて展開しており、今後中国市場に向けて大きく伸びる。短期的な寄与では、今あげた 3 つの事業に期待している。

A&T を 100%子会社化した後、試薬はトクヤマ本体で補うべく研究開発を進めており、生活習慣病にフォーカスしていた形。自己免疫疾患、オンコロジーの分野に強みを持つ体外診断は我々が持っていないものを補完する意義が深い。また、POCT に関して注目しているのは、寝たきりの患者さんや在宅医療の患者さんにキットや機器を持ち込む分野である。これらにより、我々が持っていなかったパイプラインを拡充していく。

Q: 医療診断システムと体外診断薬以外のトクヤマのライフサイエンスの既存事業にも、シナジー効果は期待できるか。

A: フォトクロミック材料とのシナジーは直接的にはないが、ジェネリック原薬や歯科器材は相溶性があると考え。特に歯科器材は、トクヤマデンタルで治療をベースにさまざまな製品を開発中であり、今後重要視されるのは、例えば唾液の中のタンパクを検出して歯周病のリスクを診断するといった予防医療分野であり、シナジー効果が期待できる。

Q: クロージングは 2025 年 10 月予定ということだが、2025 年度の予想には下期に織り込まれているのか。また、クロージングができないリスクは高いのか。

A: 競争法のリスクのハードルは高くないと考えており。クロージング後、2025 年度下期から当社の連結範囲に入る予定。

Q: 820 億円という大きな投資判断だが、プロジェクトにかける思いや決意を聞かせてほしい。

A: 巨額投資だと認識している。一方、今回買収した事業は特長のある技術で、体外診断薬の中でも自己免疫疾患の領域については高いシェアを持ち、がんの治療に際してのコンパニオン診断薬分野においても日本の先頭を走っており、安定的に収益を先々にわたって生み出せる会社と判断している。買収金額は大きいですがキャッシュを稼いでくれる事業で、売上はもちろん利益も上昇していく見込みで、リスクではなくセキュアな投資と考えている。我々が従来から伸ばしたいと思っていた分野に関する重要な技術要素と材料を兼ね備えているので、さらなる成長が期待できる。ライフサイエンスは将来のトクヤマの柱となる事業で、今回買収した事業はその重要な役割を担う。我々のポートフォリオ転換を大きく推進できるとして、大いに期待している。

以上